

泌尿器科

診療科の紹介

泌尿器科悪性腫瘍、良性疾患に対する診療を行なっています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行なえるよう心がけております。また、罹患頻度の高い尿路結石に対しては、迅速に手術治療を行ない、できるだけ早く患者さんの苦痛を和らげるよう努めています。当院の特色である小児診療も積極的に行なっており、小児泌尿器科領域での外科手術を施行しています。泌尿器科救急疾患にも24時間迅速に対応します。

2019年4月より、常勤の泌尿器科医が1名増員となり、2名体制となりました。より柔軟な対応が可能となり、手術件数も順調に増加しています。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

診療科の特徴（強みや新たな取組み等）

■内視鏡的デフラックス注入療法

膀胱尿管逆流症に対する新しい手術として、内視鏡的デフラックス注入療法を2021年6月より開始しました。少しずつ症例が増え、20例ほど施行致しましたが、全例良好な治療経過です。症例数は福岡県でもトップクラスです。従来の開腹手術と比較し低侵襲な手術であり、患者さんの満足度も高いと考えます。

■尿路結石治療

尿路結石に対して、ESWL（体外衝撃波結石破碎術）とTUL（経尿道的結石碎石術）を積極的に行っています。できるだけお待たせすることなく、迅速に行なうよう心がけています。

■前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療

前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療（²²³Ra（商品名：ゾーフィゴ））を行なっています。福岡県内でも上位の症例数を経験しております。

取り扱う主な対象疾患

■泌尿器科悪性疾患

腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎癌、等

■泌尿器科良性疾患

尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿路感染症、等

■小児泌尿器疾患

停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎、等

■泌尿器救急疾患

尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉・膀胱タンポナーデ、精巣捻転、嵌頓包茎、等

令和4年度 診療実績（手術・検査数等）

外来患者数	3,891人
入院患者数	262人
（平均入院患者数9.85人/日、平均在院日数 12.7日）	
手術件数	159件
ESWL件数	110例

スタッフ紹介



泌尿器科主任部長
松本 博臣
まつもと ひろおみ



泌尿器科部長
山崎 豪介
やまさき こうすけ